



社会福祉法人 熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 63号 平成31年4月



真摯な活動に 少しでも継続支援

東京エレクトロン九州株式会社

副社長 萩尾 一雄

2016年に発生した熊本地震から3年を迎えようとしています。昨年も日本各地で大きな地震の報道があり、あらためて地震発生当時を思い起こすとともに、増加する自然災害に向けた準備の必要性を感じています。読者の皆さまもご家族とともに、熊本地震から3年を迎える契機に避難マップの確認、防災グッズの点検などを実施いただければと思います。

東京エレクトロン九州は、スマートフォン、家電製品、自動車などに使われる半導体をつくる装置を開発、製造し、世界中の半導体製造会社に納入、その後の立ち上げ、保守までを一貫して実施しているメーカーです。1983年にこの熊本の地で事業を開始し、30年以上が経ちました。地域の皆さまのお力添えにより事業活動を展開し、成長させていただいている、との思いから、さまざまな支援活動をおこなっております。

支援活動の一つに、当社の食堂メニューに加えた寄付金と、工場内の自動販売機の売上の一部を合わせた金額の同額を会社が寄付する「マッチングギフト」があります。従業員もこの活動により直接的な支援につながっていることを誇りに思っております。

また、当社はCSRおよび生物多様性活動の一環として、俵山での植樹活動を毎年3月に実施していま

す。当社社員とその家族および自治体の皆さまにも参加いただき、1,000本の若木を植樹しています。この活動も14年間におよび、通算14,000本となりました。

「福祉」の視点では、近隣の児童福祉施設や医療機関への支援、地域の社会福祉協議会様等への寄付を毎年おこなっております。「熊本いのちの電話」様にも2009年より寄付を開始し、今年で13年目となります。熊本のみならず全国からの相談を受けられ、24時間・365日の受付をすべてボランティアで対応され、多くのご苦労があるとお聞きしています。少しでもご支援できればとの思いから寄付を継続させていただいています。

厚生労働省の統計によりますと、全国では年間2万人以上、熊本県内でも250名以上の方々が自らの命を絶っているといわれています。悲しい結果に至る前に、命をあきらめさせないための活動に真摯に向き合っておられる皆さまの活動には、ただただ頭の下がる思いです。今後ともご活動の一助となるよう、支援を継続してまいります。

いのちの電話相談員の皆さま、そしてこの活動を支援されている個人、企業の皆さまのご健勝とご活躍を祈念し、巻頭のあいさつとさせていただきます。

通信63号 目次

巻頭言	P1	一泊研修の感想	P5	感謝報告	P7
自殺予防公開講演会	P2	自殺者数と電話相談について	P6	お知らせ	P8

厚生労働省補助事業 熊本いのちの電話自殺予防公開講演会 子ども・若者の自殺予防対策講演会・シンポジウム

開催：2019年2月3日（日）

会場：熊本市国際交流会館7階ホール

■講演会概要

渋井哲也氏を講師にお迎えし、インターネット社会の中で、SNSを通して自殺メッセージを発信する子どもや若者のこころの有り様についてお話ししていただきました。3人の専門家によるシンポジウムでは、中・高校生への「いのちの授業」の取り組みや、電話相談、自殺未遂者への医療的支援活動の現場などからのお話をうかがい、子ども・若者のいのちを救い、育んでいくため、現状とこれからの可能性を考える場となりました。

■第1部：基調講演



演題：若者たちはなぜ自殺を考えるのか
～座間事件に見る「死にたい」若者たち～

講師：渋井哲也氏（フリーライター）

プロフィール：若者の生きづらさを主なテーマに自殺、自傷行為、家出、援助交際、少年犯罪、いじめ、教育問題、ネットコミュニケーション、ネット犯罪、東日本大震災などを取材。

略歴：東洋大学法学部卒業。1993年長野日報入社。98年退職しフリーランス。2001年東洋大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了。中央大学非常勤講師

みなさんこんにちは。今日の話題では座間事件が絡みますのでスマートフォンや携帯電話、SNS特にTwitterが出てきます。

今日のメインの話である、座間事件の話をしたいと思います。今は起訴されている被告の男性は当時、Twitterで“首吊士”というアカウントを持っており、首吊りの情報提供などをつぶやいています。

僕は、被害者が首吊士とどんなやり取りをしたのかに关心があり、誘われても現場に行かなかつた人

を探し、会うことができました。ひとりは、取材当時17歳の女性です。彼女は、もともと家族と折り合いが悪く、彼女の居場所としてFacebookがありました。そこで知り合った男性に将来の悩みについて相談するようになりました、彼の部屋で性暴力被害にあります。そして、彼女は初めて死にたいという感情が芽生え、裏アカウントを作りました。裏アカウントとは、友人や家族など人に知られたくないことをつぶやくためのアカウントです。そこで「死にたい」という言葉をはじめて書きます。Twitterで首吊士と知り合います。女性が埼玉県だったので、「関東で一緒にですね」ということから、“一緒に”というのはやりとりのうち、“親近感”を抱くものです。一方、首吊士はビジネス的ですごく冷めた感じで言っています。このやりとりでは、自殺の理由は一切聞いていません。ネットで知り合った、見ず知らずの人と自殺をする「ネット心中」では自殺の理由を聞いていくと、やっぱりやめようとなる。一方、自殺するケースでは冷たいやり取りが多い。

彼女はやり取りの結果、首吊士に会いませんでした。それは彼女が埼玉県から行く必要があり、交通費がかかりますし、行って殺してくれるなら行ってもいい。しかし、殺してくれる保証はない。そこで躊躇したそうです。この事件が発覚して女性が何人か殺されていたことを見て、「私も行っておけばよかった」というふうに思ったそうです。

事件後にTwitterでのアンケートをいくつか紹介します。

「自殺願望や希死念慮を否定してほしくない」ということが結構ありました。あのとき「自殺を考えているとこんな事件に巻き込まれる」という報道があり、自殺したいという感覚を否定してほしくないということがアンケート、つぶやきでみられました。「殺された人の代わりに死にたかった」「私が代わりになれたらしいな」「私も10人目になりたかった」などがありました。あれだけの事件があり、Twitterとの繋がりの中で恐怖心をあおるような報道もあったにも関わらず「羨ましい」「9人殺されているけれど10人目になりました」という深刻さを示す意見が多かったのが印象的でした。

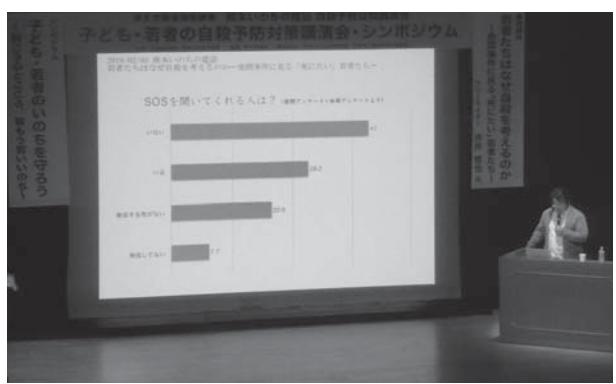
自殺系サイトでチャットした人に対してどのように思ったのかを聞きました。これはTwitterだけではなく、掲示板などいろいろありますが、「共感した」という人が多く、「死にたくなった」という人もいますし、「安心した」という人も結構います。自傷したという人もいます。どんな自傷系サイトを見たのかにもよりますが、人によっては自分のリストカットの傷跡を写真で載せていて、そういうのを見ると刺激されて私も自傷をしたという人もいます。写真は載せずに自慢をしているかのような書き

込みを見つけて「私の方がもっと苦しんだ」と思って自傷したという人もいました。ただ、そのサイトが居場所になった人もいるし、逆に死にたくなった人もいるのですが、生きようと思った人もいます。

Twitterでは、どんなことを日常的につぶやいていたのかを聞きました。報道で「一緒に死にませんか」という言葉が割りと流れたので、その言葉で触発された人も多いのではないかと思ったのですが、多くは単純に「死にたい」「消えたい」が多い言葉でした。ではそのつぶやく理由は何だったのでしょうか。暇つぶしは0.1%程度いますが、圧倒的に多いのは「その時の瞬間的な感情表現」「日常的な心の整理をしたい」「誰かに聞いて欲しいからつぶやいた」ということが多くありました。

ではそのつぶやいた結果はどうだったのか。「死なないで」「話を聞きます」「一緒に死にましょう」という反応が返ってくることもありますし、「勝手に死ねば」というコメントもあります。ただ、半分以上、反応がないというものです。「無視された」「それよりも私の方はもっと辛いよ」とか、「逆に通報されちゃった」ということ也有ったようです。つまり、話を聞いて欲しい、或いは安心したいと思っているにもかかわらず、そういうつぶやきがなかなかこないことがあります。

「日常的にSOSを聞いてくれる人はいますか?」という質問をしました。3割ぐらいの人がいるという答えでした。勿論いない人が多いのですが、発信する気がない、発信していてもしていないと答えている人もいるのだと思います。しかし、SOSを聞いてくれる人が3割いてもSOSを発するかどうかはまた別の問題になります。「では、誰が聞いてくれますか?」も聞きました。一番はやはりネットの友だちです。裏アカウントで繋がっている人も多く、なぜ死にたいと思っているのかを知っているので、そういう人に話を持っていくという人が多いようです。メールも含めて、これが多いのかどうか分かりませんが、いのちの電話よりも多いのは精神科医、カウンセラー、母親です。兄弟・姉妹、恋人も少なく、父親はゼロです。聞いてくれる人を相当選んでいます。

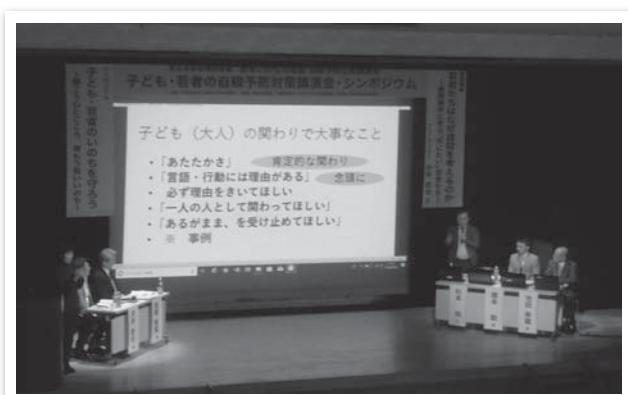


座間事件を振り返って、インターネットで繋がることの意味を考えてみたいと思います。先ず、「キーワード」で繋がっています。例えば、首吊士の場合には、自殺とか安楽死という言葉で検索され、繋がりました。そして、学校の友だちでも何を考えているのか、最初からわかりません。ところがインターネットだと、プロフィールやつぶやきを見れば、どんな考え方をしているのか、どんなことを思っているのかなど、人間関係を作る前に予め志向性がわかり、「インターネット上」で人間関係を繋がり易くします。それからメールやSNSなどのメッセージでも繋がることになり、時間や相手の都合に関係なくLINEやメールのやり取りができるため、「インターネット上」で24時間、繋がっているという感覚を得ることができます。

言葉(文字)が中心のコミュニケーションですので、言葉や知識が過剰になります。小学生ぐらいで自己分析のプロフィールがたくさんあり、「私はうつ病だ」「人格障害だ」ということを書いたりします。インターネットで繋がるということはコミュニケーションが過剰になるので、関係性の構築は早いのですが、ちょっとしたことで崩れることも多く、トラブルも起きやすい。一方で、期待値が高いようなコミュニケーションができることがあります、トラブルも起きるというのは、やはりコミュニケーション過剰が背景ではないかというように思います。

インターネットは昔、第4空間だと言われました。そこは学校や家庭や地域社会、そういった実的なコミュニケーションから逃れる場所で、癒やしであり、居場所だったインターネットが実は居ににくい場所になってきました。Twitterなどでネタ的なコミュニケーションになりやすくなる一方で、誹謗中傷やいじめが発展します。その果てに炎上するようなこともあり、インターネットから居場所を失うことが最近では多く見られます。

そもそも「居場所」とは何でしょう。「ありのままでいることで自信を持つ」「自信を持っていられる」「安心していられる」場所ということです。空

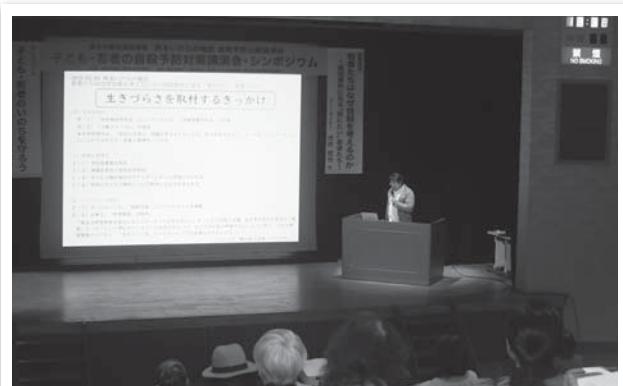


間的なスペースの他に癒やされる時間、関係性も必要です。又、物が“居場所”になることもあります。ただその居場所は、競争社会とのセットで初めて成り立つといわれています。つまり居場所は居場所のままだと居場所内で競争してしまうので、居場所と競争社会は別にあったほうがいいということです。

若者たちを取材していると支援者たちに、こんな期待と不安を持っています。「詮索しないで欲しい」「入院だけさせて」「大人の言葉なんて信用できない」「死ねる薬だけください」などです。支援してほしい、生きづらいと思っている人は、生きたいという感情と、死にたいという感情の両方を並行して持っています。先ほどのアンケートにもありました、自殺願望や希死念慮を否定してほしくないという感情を支援者に向けています。そういう相手との関係性を持つときに確かに支援者から見れば、生きて欲しいと思うこともあるかもしれません、同時に死にたいという感情を否定してしまうとその関係性が崩れて、不信と怒りが出て、その支援の輪から離れていくことになります。

僕がいつも講演の中で最後に言うことばがあります。キーワードはCompassion（コンパッション）です。Passion（パッション）は日本語で“情熱”と訳すことが多いですが、情熱だけでなく、感情の全てであり、“衝動”を指しています。すべての感情の表現、表出をパッションと呼びます。つまり共感をする感情もあるし、恐怖や苦しみを味わう感情も含みます。コムというCOMは“共に”という意味ですが、その共に感情表出を味わうことによって、共感・共苦が生まれる。寄り添うまではいかないまでも相手の立場を想像できるというようなことがあってはじめて、「支援」あるいは「生きてほしい」「死にたいという感情を否定しない」、その感情を全部包み込んだような感覚を僕は共感・共苦と呼ぶことにしています。

短い間ですが、ちょっと時間も迫ってきましたので終わりにしたいと思います。ありがとうございました。



■第2部：シンポジウム

演題：子ども・若者のいのちを守ろう
～繋ごう心とこころ、育もう若いいのち～

シンポジスト：**杉本 明氏**
(北海道いのちの電話事務局長)

橋本 聰氏
(国立病院機構熊本医療センター
救命救急・集中治療部/精神科医長)

池田幸藏氏
(熊本いのちの電話副研修委員長)

・**杉本 明氏**

『いのちの電話が“子ども達に伝えたいこと”』
北海道での「いのちの教室」の活動状況を紹介し、その中で訴えている「話をきいてくれる人を作つてほしい」「話をきける人になってほしい」「いつもと様子が違うときは声をかけてほしい」「話せる人がいない時は『いのちの電話』に電話をかけてほしい」というポイントと、特に“話を聴く”ことで救われる“こころ”がある大切さを伝えていただきました。

・**橋本 聰氏**

『自称・自殺未遂者にて救急医療施設を受診する
子ども・若者たちについて』
救急外来の受診記録調査から見えてくる子ども・若者の自傷・自殺企図の現状から、それらを防ぐために“死にたい”や“意味がない”、自傷行為が重大なシグナルであるという認識を新たにすることや、告白相手が「同年代>おとな」という傾向を踏まえ、有用な見守り上の注意点を示してくださいました。

・**池田幸藏氏**

『若者の自殺を防ぐために何ができるか』

先ず、自殺者の現状、若者の自殺について、その特徴や特有の要因、国の施策の社会的背景や現状について説明し、いのちの電話の取り組みについて触れ、「自殺予防の問題は、みなさん一人ひとりがそのことに関心を持ち続けることが大きな力になります」とメッセージを送っていました。



一泊研修の感想

熊本いのちの電話では、相談員養成のために2年間のプログラムを組んでいます。1年目は座学中心、2年目は実際に電話相談を受けながら研修を進めます。このうち1年目のプログラムの集大成とも言えるのが、毎年2月に行われる「一泊研修」です。今年度は17名の受講生が参加。その感想をまとめました。

短い言葉でも思いやる言葉があれば少しは元気になってくれる、いのちを繋いでくれるのではないかと。人ごとではなく、自分のこと受け止め、日頃から言葉の引き出しをたくさん作っておこうと思った。

掛け手の最初の言葉やトーンに注意すること。より実践に近い学習に触れ、難しいことが先入観を持たないようになりますことの重要性を理解しました。また、寝食を共にした研修生同士との和もより深まりました。

頭が痛くなる程、考え、感じようと努力しましたが、明日には忘れているかもしれない。実際の電話に勝る勉強はざまな掛け手がいらっしゃることを

掛け手の話を聞くことの難しさを考えさせられた。「聞く」を大切にして、私自身を感じることも大事にしたい。今回の研修で少し成長できたので

夜の交流会は長時間となり、最大の宝物になつた。課題も整理でき、傾聴みがき、感性を豊かにする、感情表現に使える実感の伴つた“言葉”を増やすこと。そして、そういう人生を歩んでいくこと。

良き指導者、良き35期生に出会い恵まれた時を送ることができた。電話を前に頭の中がパニックだつたが、自分自身の注意点を再確認し、日頃から注意しておかねばと思う。

今、掛け手が一番言いたいことに焦点化していくと先に繋がっていく可能性がある。基本を忘れず、前に進みたい。35期生との出会いにも感謝したい。

自分のこれからをボランティアとして社会や“ひと”的に活かしたい。人の心は変化するものである。社会の支え、針一本になれて過ごせれば自己満足ながら、いい人生となるに違いない。

自分を静として相手の話を聞くことの大切さ、掛け手から出される言葉、繰り返される思いの言葉を聞き、受け止める。基本を見つめ直し、これからの対応に活かしていきたい。

掛け手の言葉はそのままその人の気持ちの通りだと思う。しかし、自分が受けける、自覚する感じ方との差があるように思える。その違和感との向き合い方がこれからの課題であろう。

電話相談と一言でいつても奥が深く本当に対応のやり方で一人ひとりの人生がかかるところもあり、責任を感じる。相手の思いを感じ、受け止めたり添うことなど日常生活の中で意識していきたい。

この研修で一皮むけるつもりで入り、終えて一歩成長できたかなと思う。周囲からのアドバイスや応援をもらいながら、自分で気づけない苦手な部分にも触れることができ、これから目標ができた。

そんな遠く見ないで、少しでも前に、一歩でも前に自分のできることがあれば、やれるだけやっていきたい。掛け手の気持ちを真摯に受け止め、少しでもお手伝いができると思つた。

掛け手との間を大切にゆっくりゆつたりを大事にし、緊張感を持ち続けることができるよう自分のペースで少しずつ前に進みたいと思う。楽しさあり、きびしさありでみんなといつしょに過ごせた研修は嬉しい思い出となつた。

掛け手の話をよく聞く、何を訴えているのか、そのため受け手としてどう対応するか考えることができるように、これから経験を積んでいきたい。

実際の相談を受けるにあたり、真摯に行動し、自分の思いを少し加減して、掛け手の気持ちに寄り添っていく気持ちを忘ることがないよう、その気持ちを大事に、毎日を過ごしていきたい。

長い研修時間に耐えられるか…結果として短く感じられるほど内容で、気づけていない自分を見つけることができた。自分の課題とどう向き合つていくか、今後のテーマの一つになつた。

自殺者数と電話相談について

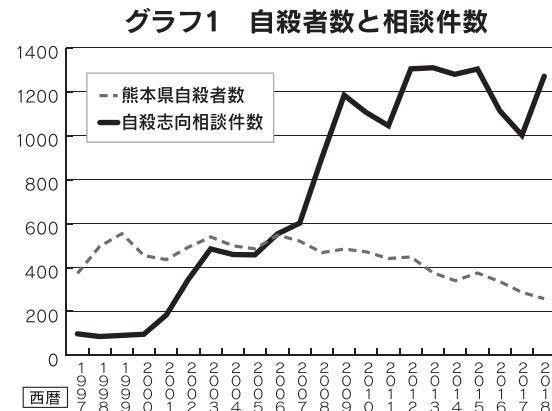
熊本いのちの電話では相談員はじめ関係する全員が、自殺者数が一人でも少なくなるように日々活動しています。平成30年は29年に比べ自殺者数はどうなったのか、電話相談件数と自殺者数は関係があるのか、また交通事故死と自殺者数は長期的に比較するとどうなっているのか、調べてみました。

1 熊本県の自殺者数と自殺志向相談件数

2018年（平成30年）の全国の自殺者数は前年より723人少ない2万598人となり、9年連続で減少しました。

熊本県の自殺者数も前年より29名少ない258名となり、過去20年間では最少となりました。

グラフ1でわかるように過去20年間を見ると熊本いのちの電話の自殺に関連する相談件数は増加し、熊本県の自殺者数は減少しています。いのちの電話相談がささやかながら自殺者数の減少に関係しているのではないかと思っています。



2 交通事故死と自殺の比較

1970年（昭和45年）、交通事故死者数が日清戦争での日本側の死者とほぼ同数になったことから、「交通戦争」の言葉ができました。（1970年の交通事故死者は16765人、自殺者数は15728人で、ほぼ同数でした。）

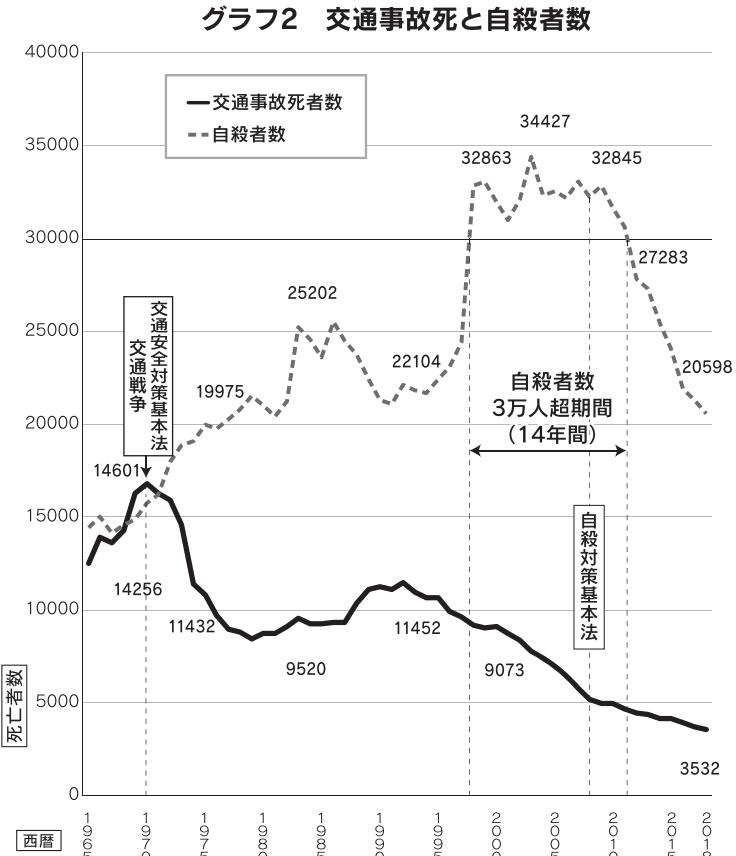
東京に日本で初めての「いのちの電話」が開設されたのもこの年でした。それから半世紀、どのようになったでしょうか。

1970年には交通安全対策基本法が制定され、その後十次にわたる5カ年計画により、罰則の強化、信号や道路整備、安全教育、車両の改善等が進み交通事故死は年々減少しました。

一方、自殺対策に対する国の取組みは遅れました。自殺者数が3万人を超えていた2006年（平成18年）に初めて自殺対策基本法が施行され、翌2007年に自殺総合対策大綱が制定されました。3万人超えは2011年まで14年間続きました。

自殺対策基本法が制定されて以来、ゲートキーパーの拡大、自殺予防週間や月間の設定、自殺総合対策推進センターの開設、SNS相談の開始、いのちの電話等民間団体の活動などにより、今年（2019年）は2万人を切るまでに減少する見通しとなり、成果は確実に上がっていると思われます。

交通事故死と自殺者数がほぼ同数だった1970年から比べると、2018年の交通事故死は72%減少しました。しかし自殺者数は1970年の21%増となっています。（グラフ2）自殺者数は近年減少しているとは言え、交通事故対策のように、国が自殺対策にもっと早くから取り組んでいたら今頃は……、と思わざるを得ません。自殺者



数が交通事故死者数のように減少することを願って、いのちの電話は活動を続けていきますので皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

出典 熊本県の自殺の概要（平成26年版）

自殺者数 2010年以前は警察庁の統計

2011年以降は厚労省の統計

交通事故死者数の推移 警察庁広報資料（平成30年1月）

感謝 報告

ご支援ありがとうございます。

寄付感謝報告

(平成30年12月1日～平成31年2月28日)

法人・団体の部

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 福田 稲	熊本医療ガス(株) 熊本学園大学 (公社)熊本善意銀行 熊本白川教会 (株)小竹組 さいが綜合法律事務所 在宅・よろず相談クリニック 新産住拓(株)	白瀬貴美子 幸田 亮一 大堂 正人 雜賀 康泰 俵 哲 小山 英文	西部電気工業(株) セベ産科用品(株) (株)鶴屋百貨店 遠山歯科医院 日本基督教団 日本基督教団 日本聖公会 鹿児島復活教会 日本福音ルーテル 室園教会 女性会	熊本 敏彦 坪田 隆二 久我 彰登 遠山 啓介 熊本草葉町教会 錦ヶ丘教会 川島 直道 日本聖公会 鹿児島復活教会 日本福音ルーテル 室園教会 女性会	(医)野尻会 熊本泌尿器科病院 野尻 明弘 宮川輝之法律事務所 メガネの大宝堂 森本法律事務所 森山義文法律事務所 有斐総合法律事務所 匿名1件	宮川輝之 布田 昭 森本耕司 森山義文 井上 陽介
---------------------	---	--	--	---	---	---------------------------------------

個人の部

(敬称略・順不同)

青木 修 赤木 佐 有村 真 尾村 振 今宇 敷 内田 直	木星 仁 星馬 修 有稲 有 尾村 佐 今宇 佐 内田 佐	悟二 敦臣 加岡 岡 片岡 片岡	江崎 大 大我 部 弘美 加 弘隆 片 弘清 片	嶋子 香 和塩 岡 永鴻 岡 江山 鳴 島木 桐	弘子 香 弘治 志 永江 鳴 江山 和 崎島 木	子美 香 美香 己 永江 鳴 江山 和 崎島 瞳	門河 開 河清 鴻 永江 郡 江山 郡 崎島 木	脇北 恵 北永 友 永江 友 江山 和 崎島 瞳	愛敏 子 敏サチ 永サチ 江サチ 崎木 瞳	子夫 夫 夫紀 子 友紀 子 和和睦 和睦 瞳	子代 美 代子 美 紀子 美 和睦 瞳	高田 儀 儀中 中西 中西 演	杉中 信 中野 信 中西 慎 中西 慎	ノリ子 信 義子 恒 子代 静 く宏	林野 久 開廣 一郎 広代 静 く宏	修啓 由 啓由 美 妙代 美 貴代 輝	子介 美子 由美子 子 妙子 輝 貴子 浩	牧牧 三 三光 幸 尚廣 康 広拓 尚	勝陸 平 平生 昭 尚美 美 美緒 善	持永 三 笠渡 平 渡渡 渡 渡渡 渡 和誠 匿名	瑞恵、摩 内本 武了 和文 二 和文 二 和文 二 和誠 匿名
--	--	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	--------------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------------------------	--

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

募金式自販機寄付

(平成31年1月末日現在)

募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 APパーク桜町 KMバイオロジクス(株) 菊池研究所 KMバイオロジクス(株) 合志事業所 KMバイオロジクス(株) 本社 KMバイオロジクス(株) 阿蘇事業所 菊陽レディースクリニック 北熊本乗馬クラブ (株)九電工 九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学	(医)寿量会 熊本機能病院 熊本県医師会館 熊本市水の科学館 (医)孔子会 孔子の里 金剛(株) (株)SYSKEN 崇城大学 慶賓館 建吉観光土地(株) (株)建吉組 (株)建吉組 (株)建吉組	(株)建吉組 (株)建吉組 (医)寺尾会 寺尾病院 (医)聖孝会 中村整形外科 和みほいくえん 西日本電材(株) (特非)花織部 松尾建設(株) 松尾建設(株) 松尾建設(株) 松尾建設(株)	はなぞの現場 学校給食会現場 (医)寺尾会 寺尾病院 (医)聖孝会 中村整形外科 和みほいくえん 西日本電材(株) (特非)花織部 松尾建設(株) 松尾建設(株) 松尾建設(株) 松尾建設(株)	松尾建設(株) 熊本整形外科現場 松尾建設(株) 馬渡現場 ルーテル学院高等学校
--	--	--	---	--

サントリービバレッジサービス(株)、
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)
の2社のご協力を頂き、自販機による
ご寄付の仕組みを準備しております。
各自販機設置者様のご支援と上
記2社のご協力に感謝申し上げます。

肥後銀行、熊本銀行、熊本第一信用金庫のご厚意で、寄附金お振込みの際の振込手数料を免除いただいております。

これにより、ご寄付の全額が熊本いのちの電話の活動を支える資金となります。

(専用の振込用紙をご利用いただくと、この免除の対象となります。)

各金融機関のご厚意に対しらためて感謝申し上げます。

遺産等の一部で 熊本いのちの電話へご支援を！

熊本いのちの電話では、以下の手続きによるご寄付もお願いしております。自殺予防活動へのご支援をお願い致します。

①死因贈与による寄付

②遺贈による寄付

③相続した財産を寄付する

詳しくは、熊本いのちの電話のホームページをご覧いただくか事務局までお問合せください。(TEL:096-354-4343)

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日に行われるキャンペーンでは、お買い物をなされたお客様から熊本いのちの電話に寄せられた「黄色いレシート」の総額の1%相当額を、ギフトカードとして頂戴し、活動に必要な物品の購入に充てさせて頂いております。

イオン熊本中央店とマックスバリュ田崎店でのキャンペーンに参加しております。

お買い物の際には「熊本いのちの電話」のボックスへ黄色いレシートをご投函頂きますようお願い致します。

2018年度 後期講座修了式

2月26日（火）、熊本中央YMCAに於いて「第35期電話相談員養成講座」の修了式が執り行われました。講義やロールプレイ等、一泊研修を含め、後期19回の講義を終えられた、17名の方々です。

赤星事務局長より、修了証書が一人一人に手渡され、後藤研修委員長や相談員会長たちから、お祝いの言葉とともに、4月から研修生として、みんなで支え合い、自殺予防に取り組んで相談電話を受けていただきたいと、ねぎらいと期待の言葉がありました。受講生代表のMさんは、厳しい中にも楽しみなながら受講でき、すばらしい仲間ができたこと、これからも頑張っていきたいと抱負を述べられました。その後の茶話会では、たくさんの中身を入れの品々が並び、語り合い楽しい時間を過ごしました。最後に受講生に、お祝いの黄色いチューリップがプレゼントされました。



チャリティ公演

開催日決定 2019年8月17日(土)

会場：くまもと森都心プラザホール
出演：熊本県太鼓連盟／熊本県吟剣詩舞道総連盟／花童 ほか

5月中旬チケット販売開始

- お一人 2,000円
- お電話でのお申し込みは
096-354-4343
熊本いのちの電話事務局

5月7日開講

平成31年度 養成講座受講生募集

“受容する力” “傾聴する力” “共感できる力” を育ててみませんか!
思う、考える、行動する自発性も自然と身につきますよ!

詳しくは、熊本いのちの電話事務局にお尋ねください。



井上陽水の”傘がない”の一節に「都会では 自殺する若者が増えている、今朝きた新聞の片隅に書いていた…」今から47年前、1972年の曲です。そのときは、どんな熱量でこの問題を世間は見ていたのでしょうか。人と人の繋がり方が複雑、多様化した今日、自分の居場所を大人も子どもも探している。最近読んだ「大学生のこころのケア・ガイドブック」の初版が2007年。同じ問題は時代を経ても、様相を変えながら存在するでしょう。人一人はとても大切な存在です。私たちの活動はほんの一部の方々にしか届きませんが、続けることで少しでも役に立てたらと思います。

事務局日誌



平成31年1月～3月

1月	20日	熊本いのちの電話新年会
	26日	深夜帯共同化事業研究会議 熊本県医師会館
	27日	インターネット相談実務説明会 KIND会館
2月	3日	自殺予防公開講演会 熊本市国際交流会館
	9, 10日	第35期電話相談員養成講座一泊研修 YMCA阿蘇
	16日	自死遺族支援研究会 東京
	23日	インターネット相談 OJT① KIND会館
	26日	第35期電話相談員養成講座修了式
3月	9日	九州地区研修担当者研修会 福岡いのちの電話
		インターネット相談 OJT② KIND会館
		相談員会社会資源探訪「ライン工房」 熊本市東区
	22日	理事会
	23日	研修委員研修リーダー合同研修会 KIND会館
	29, 30, 31	第36期電話相談員養成講座事前説明会 市民会館シアーズホーム夢ホール

毎月10日 フリーダイヤル(10日08:00～11日08:00まで)

毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会



社会福祉法人 熊本いのちの電話 事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人:福田 潤 編集:広報委員会

熊本いのちの電話

検索



赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。